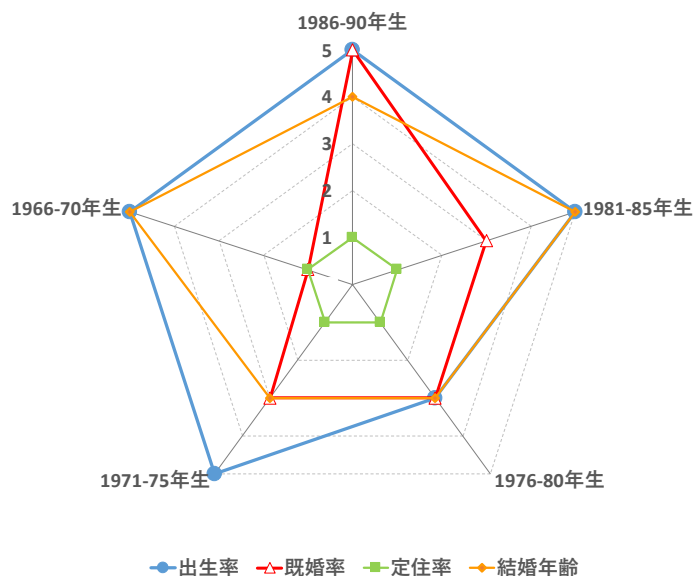


## (29) 関川村

### ①出生に関する総合評価

図29-1 コホート別総合評価



注：各コホート別の新潟県30市町村内の順位を5段階で評価している。

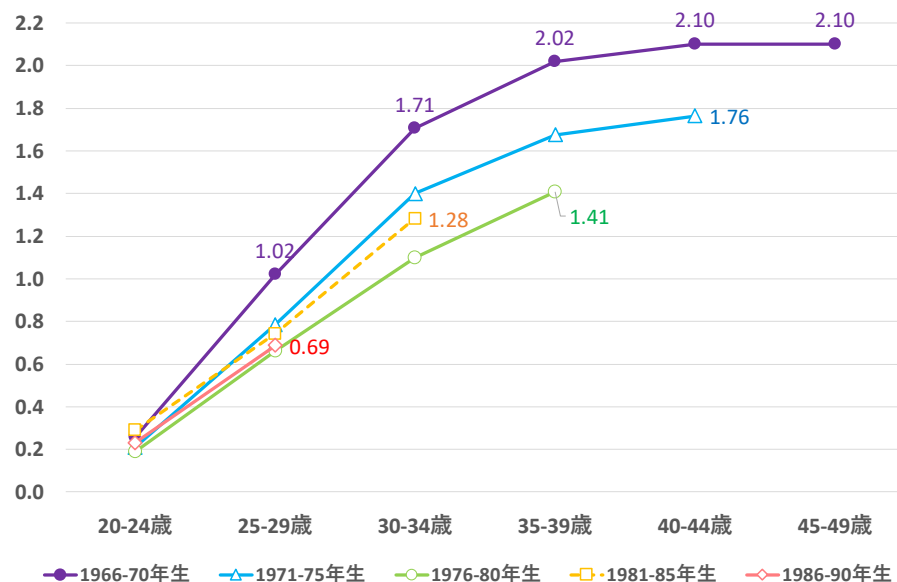
1. 合計出生率は、1966-70年生まれと1971-75年生まれ、1981-85年生まれと1986-90年生まれは最上位であるが、1976-80年生まれは中位である。
2. 女性既婚率は、1966-70年生まれは最下位であるが、1971-75年生まれから1981-85年生まれまでは中位、1986-90年生まれは最上位である。
3. 女性定住率は、すべてのコホートで最下位である。
4. 女性結婚年齢は、1966-70年生まれと1981-85年生まれは最上位、1971-75年生まれと1976-80年生まれは中位、1986-90年生まれは上位である。

### 【総合評価】

1. 関川村は、定住率が全コホートで最下位である。既婚率は1980年代後半生まれの最上位から、1960年代後半生まれの最下位までばらつきが大きい。結婚年齢は中位以上である。合計出生率は1970年代後半生まれが中位であった以外は最上位に属している。
2. 子どもが産まれる確率が最も高い25-34歳の出生数は、1970年代後半生まれから1人を下回り、20歳代後半の出生率は比較的高水準ながらも低下傾向にある。今後、25-34歳の出生率が1人を回復できるかは、30歳代でのキャッチアップがどの程度達成できるかに依存する。
3. 25-29歳以降の女性定住率は1980年代生まれのコホートで0-4歳時点の40%台であり、これが回復しなければ、人口再生産力のさらなる低下が懸念される。
4. 関川村は、1980年代後半生まれの男女間の既婚率の差が大きいことから、早期に男性に対する対策を講じることも必要である。

## ②コホート合計出生率

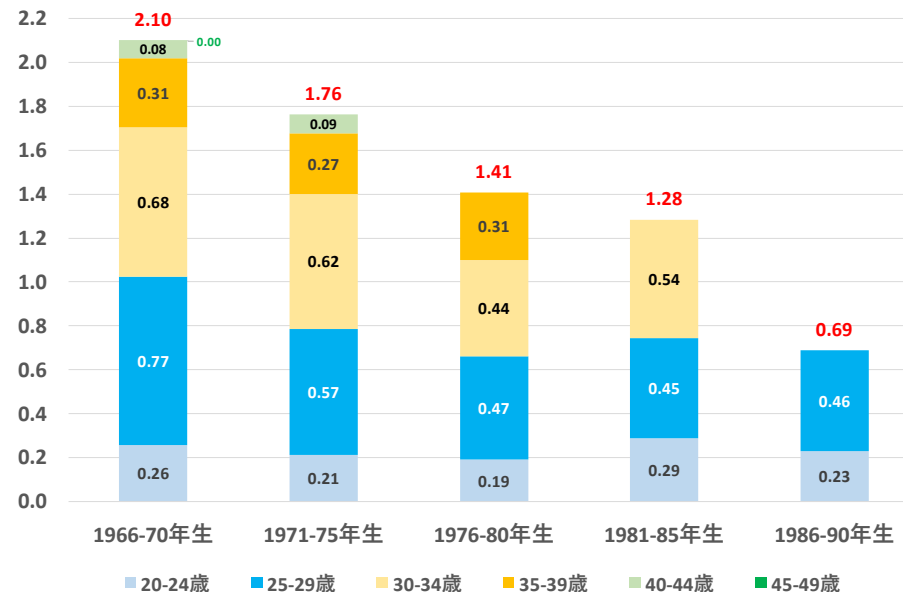
図 29-2 コホート合計出生率の推移



注：新潟県「福祉保健年報」より作成。

- ・ 図 29-2 は、関川村のコホート合計出生率の推移を示している。
- ・ 県内他市町村と同様に、1966-70 年生まれと 1971-75 年生まれ以降のコホートに合計出生率の低下がみられる。
- ・ 1976-80 年生まれと 1986-90 年生まれのコホートが、最も合計出生率が低下している。

図 29-3 コホート合計出生率の年齢区分別内訳

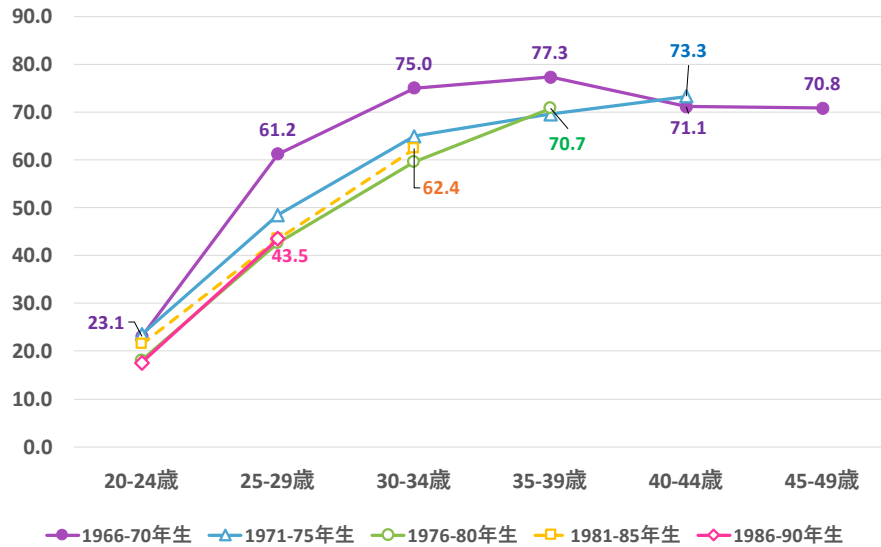


注：新潟県「福祉保健年報」より作成。四捨五入のため内訳の計と合計が一致しない場合がある。

- ・ 図 29-3 は、コホート合計出生率の年齢区分別内訳を示している。
- ・ 20 歳代の出生数は、1966-70 年生まれコホートの 1.03 人に対して、1986-90 年生まれは 0.69 人に大きく減少している。30 歳代では 1966-70 年生まれの 0.99 人に対して、1976-80 年生まれは 0.75 人に低下している。
- ・ 晩婚化のため 20 歳代の出生率が低下しているが、30 歳代でも 1966-70 年生まれから 1 人が生まれておらず、出生率の低下傾向が続いている。
- ・ 子どもが産まれる確率が最も高い 25-34 歳の出生数は、1976-80 年生まれで 1 人を下回ったが、1981-85 年生まれは 0.99 人に回復した。

### ③コホート別既婚率

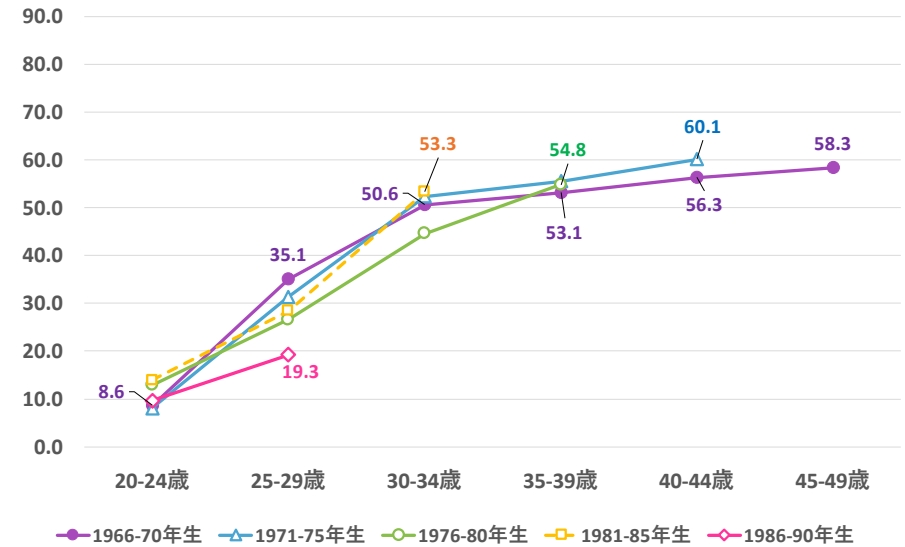
図 29-4 コホート別既婚率の推移(女性) 単位：%



注：「国勢調査」より作成。

- ・ 図 29-4 はコホート別の到達年齢までの女性既婚率の推移を示している。
- ・ 25-29 歳以降で、1966-70 年生まれと 1971-75 年生まれ以降の間に既婚率の大幅な低下がみられる。さらに、1971-75 年生まれとそれ以降のコホート間でも、25-29 歳と 30-34 歳時点の低下がみられる。
- ・ 25-29 歳の既婚率は、1966-70 年生まれの 61.2%から 1986-90 年生まれは 43.5%へと 17.7 ポイント低下し、35-39 歳の既婚率は 1966-70 年生まれの 77.3%から 1976-80 年生まれは 70.7%へと 6.6 ポイント低下している。

図 29-5 コホート別既婚率の推移(男性) 単位：%

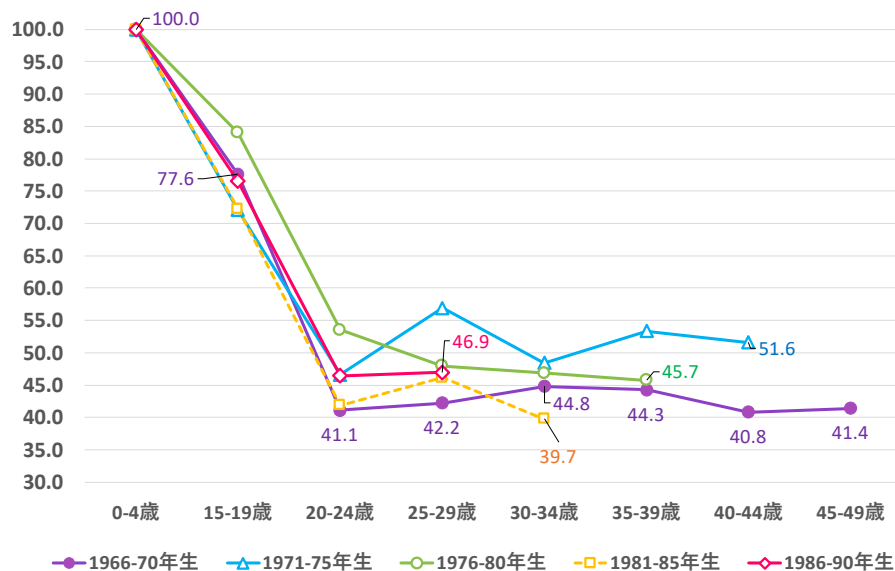


注：「国勢調査」より作成。

- ・ 図 29-5 はコホート別の到達年齢までの男性既婚率の推移を示している。
- ・ 男性既婚率も女性同様に最近のコホートほど低下する傾向が確認できるものの、女性既婚率と比較して、コホート間の差が小さい。
- ・ 25-29 歳の既婚率は 1966-70 年生まれの 35.1%から 1986-90 年生まれは 19.3%へと 15.8 ポイント低下し、35-39 歳の既婚率は 1966-70 年生まれの 53.1%から 1976-80 年生まれは 54.8%と 1.7 ポイント増加している。
- ・ 1986-90 年生まれの 25-29 歳の既婚率は 19.3%と特に低い。
- ・ 女性既婚率は 40 歳代で 70%台前半に達するが、男性は 50%台後半から 60%に止まり、男性既婚率が低い傾向が顕著である。

#### ④コホート別定住(残存)率

図 29-6 コホート別女性定住率 単位：人口指数

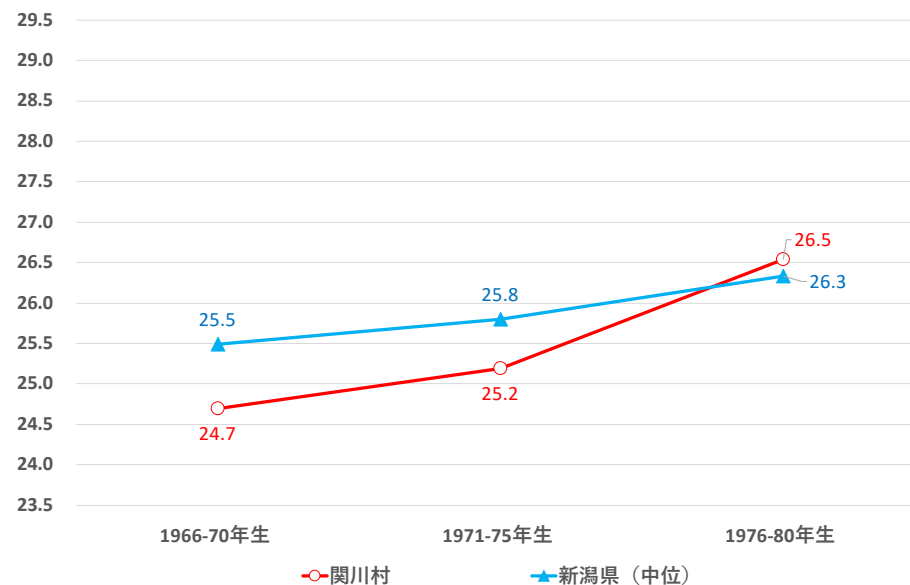


注：0-4歳人口=100。「国勢調査」より作成。

- ・ 図 29-6 はコホート別の到達年齢までの定住率の推移を示している。
- ・ 25-29歳における女性定住率は、1966-70年生まれの42.2から1986-90年生まれは46.9に4.7ポイント上昇しており、35-39歳における女性定住率は、1966-70年生まれの44.3から1976-80年生まれは45.7に1.4ポイント増加している。
- ・ 関川村では、25-39歳時で見ると、1966-70年生まれよりそれ以降のコホートは改善傾向にある。しかし、すべてコホートで0-4歳時点の40%台半ばから50%台半ばまで減少する状況が続いている。

#### ⑤コホート別女性平均結婚年齢

図 29-7 女性平均結婚年齢 単位：歳

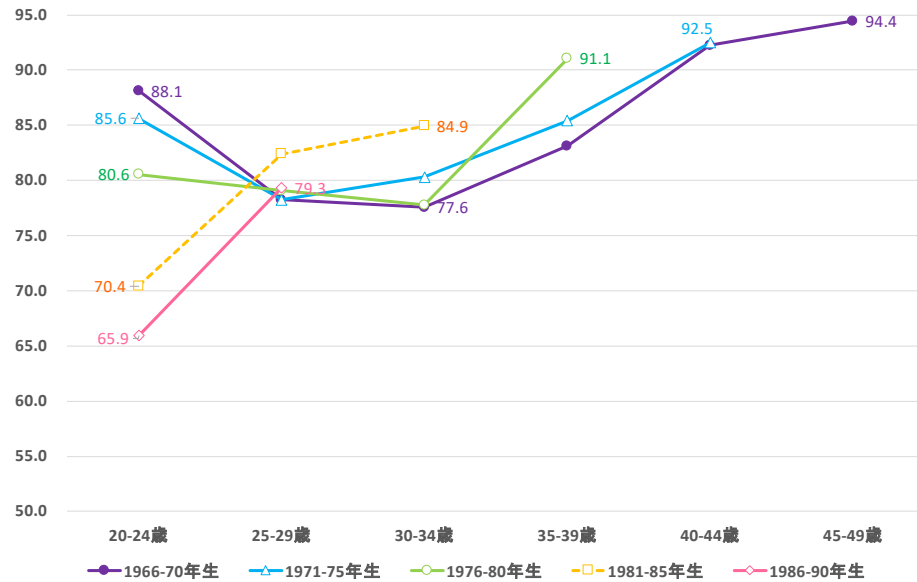


注：「国勢調査」より作成。

- ・ 図 29-7 はコホート別の35-39歳までの女性平均結婚年齢を示している。
- ・ 1966-70年生まれ、1971-75年生まれ、1976-80年生まれの35-39歳までの女性平均結婚年齢は、それぞれ24.7歳、25.2歳、26.5歳である。1966-70年生まれと比べて、1976-80年生まれは1.8歳だけ平均結婚年齢が遅れている。
- ・ 1966-70年生まれの県内順位は2位、1971-75年生の県内順位は8位と県内自治体と比較すると早かったが、1976-80年生は20位と県内平均(中位)よりやや遅い自治体となった。

⑥コホート別女性就業率

図 29-8 コホート別女性就業率 単位：%

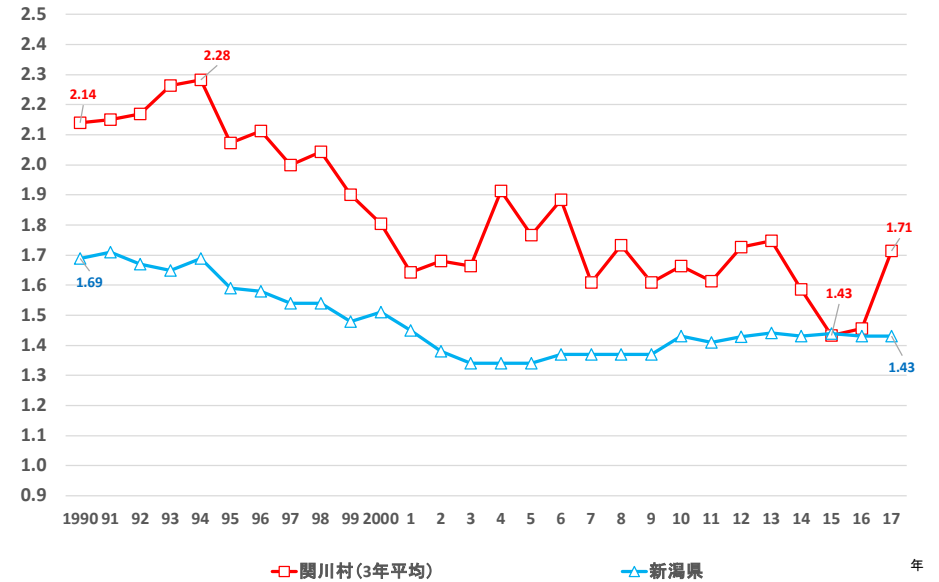


注：「国勢調査」より作成。

- ・ 図 29-8 はコホート別の女性就業率の推移を示している。
- ・ 20-24 歳から 25-29 歳までの女性就業率の変化を見ると、1981-85 年生まれと 1986-90 年生まれのコホートは上昇しているのに対し、それ以外のコホートでは低下している。
- ・ 30-34 歳の女性就業率を見ると、1966-70 年生まれは 77.6%であったのに対して、1981-85 年生まれは 84.9%に上昇している。
- ・ 1970 年代生まれまでは M 字カーブが確認されたが、1981-85 年生まれコホートでは 25-29 歳から 30-34 歳時点での M 字の底が確認されない。

⑦期間合計特殊出生率

図 29-9 期間合計特殊出生率の推移



注：市町村の出生率は 3 年間の移動平均値である。新潟県「福祉保健年報」より作成。

- ・ 図 29-9 は、1990 年から 2017 年までの新潟県平均と関川村（3 年平均）の期間合計特殊出生率の推移を示している。
- ・ 1990 年以降で見ると、関川村の期間合計特殊出生率は 2015 年を除き新潟県平均より高く、期間平均では 0.36 ポイント高い。
- ・ 関川村の期間合計特殊出生率は、1994 年の 2.28 をピークに緩やかながら長期的な低下傾向にある。近年では、2015 年に 1.43 まで低下したものの、2017 年には 1.71 まで改善している。